

アユの産卵状況と増殖対策について

1 天然河川の産卵状況(主要11河川)

- ・9月下旬の第3次調査の結果、主要11河川のうち10河川で産卵が確認され、合計25.7億粒であり(同時期の平年値は32.2億粒)、第3次調査までの合計では38.8億粒となった。
- ・産卵調査は2週間に1回のペースで計6回を予定している。

(単位:億粒)

調査次	8月下	9月中	9月下	10月中	10月下	11月上	計
	1次	2次	3次	4次	5次	6次	
R1	0.0	13.1	25.7				38.8
平年値※	0.1	19.6	32.2	20.1	0.2	0	92.8

※平年値:過去10年間のうち、最大値、最小値、過小評価となったH30年を除く平均値。

(単位:億粒)

河川名	第1次調査 8月26日～29日	第2次調査 9月9日～12日	第3次調査 9月24日～27日	第4次調査	第5次調査	第6次調査	計
安曇川北流	0.0	0.1	0.4				0.6
安曇川南流	0.0	0.2	6.8				7.0
石田川	0.0	0.2	0.5				0.7
知内川	0.0	1.5	3.2				4.7
塩津大川	0.0	0.2	0.8				1.0
姉川	0.0	10.7	6.7				17.4
天野川	0.0	0.1	2.3				2.3
芹川	0.0	0.1	0.3				0.4
犬上川	0.0	0.1	3.5				3.6
愛知川	0.0	0.0	1.0				1.0
野洲川	-	0.0	0.0				0.0
和邇川	0.0	0.0	0.1				0.1
計	0.0	13.1	25.7				38.8

2 人工河川の放流状況

(1) 安曇川人工河川(目標放流量8トン)

- ・県内養殖業者が育てた養成親魚を放流。
- ・8月27日から9月3日にかけて、目標量の8トン
を放流。
- ・平均体重33g(体長12cm)、24万尾。
- ・産卵は9月2日から確認。
- ・ふ化仔魚の流下は9月9日から開始。



写真 安曇川人工河川での親魚放流

(2) 姉川人工河川（目標放流量4トン）

- ・姉川に遡上する天然親魚を採捕。
- ・親魚は、9月4日から9月6日にかけて4トンを放流。
- ・産卵は9月5日から確認。
- ・ふ化仔魚の流下は9月12日から開始。

3 今後の予定

(1) 資源調査

①天然河川の産卵調査

- ・10月第二週に第4次調査を行い、さらに2週間おきに11月上旬の第6次調査まで実施し、天然河川での産卵数を把握

②人工河川の仔アユ流下量調査

- ・10月下旬までに日ごとの流下数と期間全体の総流下数を把握

③湖中仔稚アユ分布調査

- ・10月から12月にかけて曳き網による調査(ヒウオ曳き調査)を実施し、仔稚アユの分布、成長等を把握

(2) 不漁原因の解明

- ・平成29年シーズンの記録的不漁の原因については、平成28年秋のアユのふ化が10月以降に遅れるとともに、一時期に集中したことによる密度効果などにより、著しく成長が遅れたためであると一定の絞り込みを行った。
- ・水産試験場と琵琶湖環境科学研究センターが連携し、国立環境研究所琵琶湖分室、国の水産研究機関の助言もいただきながら環境面など広い視点を含め、引き続き検証を進めており、今年度内に原因を確定する。

(3) 次期アユ漁

- ・12月1日から次期アユ漁(エリ漁)が開始される予定
(開始日は県漁連で11月頃に最終決定)